

門真市中学生海外派遣研修事業委託事業者選定委員会（二次審査）会議録

会議名称	門真市中学生海外派遣研修事業委託事業者選定委員会（二次審査）
開催日時	平成 29 年 2 月 13 日（月）13 時 00 分～15 時 30 分
開催場所	門真市役所本館 2 階 大会議室
出席者	（委員長）久保委員長 （副委員長）柴田副委員長 （委員）畑山委員、満永委員、岡委員＜出席人数 5 人／全 5 人中＞ （事務局）三村学校教育課長、牧藺生涯学習課長、清水生涯学習課長補佐、松本生涯学習課係員、谷口生涯学習課係員
議 題 （内 容）	1. 二次審査の方法について 2. 二次審査（プレゼンテーション審査） 3. 審査結果報告
傍聴者数	－（門真市情報公開条例第 6 条第 5 号に定める不開示情報に該当するため、非公開）
担当部署	（担当課名）生涯学習部 生涯学習課 （電 話）06-6902-7139（直通）

<事務局>

開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

まず、議事次第でございます。

1 ページ、資料 1 「二次審査予定表」でございます。

2 ページ、資料 2 「二次審査評価基準」でございます。

3 ページ、資料 3 「一次審査結果」でございます。

別紙、「二次審査質問（案）」でございます。

最後に、お手元に審査用紙が 2 枚でございます。

お手元にはない資料はございませんでしょうか。

本日、委員 5 人中 5 人が出席されておりますので、この委員会は成立していることをご報告いたします。それでは、この後の議事運営を久保委員長にお願いしたいと存じます。久保委員長よろしく願いいたします。

<久保委員長>

それでは、門真市中学生海外派遣研修事業委託事業者選定委員会を開会します。本日は皆さまお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今年度も充実した研

修を行うべく、ご協力をお願いいたします。

それでは、二次審査の方法などについて、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

それでは、二次審査の方法などについて事務局よりご説明いたします。

1 ページ、資料 1 「二次審査予定表」をご覧ください。

本日は、プレゼンテーション審査である二次審査を行っていただいた後、一次審査と二次審査を合わせた得点上位者を委託事業候補者に決定いたします。

二次審査は申請順に株式会社アーク・スリー・インターナショナル、近畿日本ツーリスト株式会社の順でプレゼンテーション審査を行います。次に、2 ページ、資料 2 「二次審査評価基準」をご覧ください。プレゼンテーション審査では、申請団体から門真市海外派遣研修業務委託に関するプレゼンテーションを 20 分以内で行っていただきます。その後、概ね 20 分間の質疑応答の時間といたします。

次に、別紙、「二次審査質問（案）」をご覧ください。一次審査でいただいた意見を参考に質問（案）を作成しておりますので、参考資料としてご活用ください。

また、配点につきましては、2 ページ、資料 2 「二次審査評価基準」のとおりとし、右の評価覧の A から E までのアルファベットに○を付けていただきますようお願いいたします。一人当たり 100 点満点とし、選定委員の合計点を委員数で割ります。

全ての団体のプレゼンテーション審査の後、意見交換の時間を 15 分程度お取りします。その後、ご記入いただいた審査用紙を回収し、得点の集計を行うため、休憩をお取りいただきます。集計結果が出ましたら、一次審査の得点と二次審査の得点の合計を発表いたします。

なお、一次審査の得点は、3 ページ、資料 3 「一次審査結果」のとおりです。

また、本市では、団体の役員等に本市の市長または市議会議員が加わっていないか、団体の構成員に暴力団員または暴力団員との密接な関係を有する者はいないかという 2 点について事務局より審査の前に確認をさせていただきますので、あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

以上で、二次審査の方法などについて説明を終わります。

<久保委員長>

ただいま、事務局より二次審査の方法などについて説明がありましたが、ご意見、ご質問はございませんか。

それでは、これからプレゼンテーション審査に移らせていただきますので、申請団体を入室させてください。

《株式会社アーク・スリー・インターナショナル 入室》

<事務局>

それでは審査の前に、2点確認をさせていただきます。貴団体の役員等に本市の市長または市議会議員が加わっていませんか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。加わっていません。

<事務局>

次に、貴団体の構成員に暴力団員または暴力団員と密接な関係を有する者はいませんか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。おりません。

<事務局>

それでは、これよりプレゼンテーション審査を始めます。はじめに20分以内でプレゼンテーションを行ってください。終了1分前に合図をいたします。20分後にタイマーがなりましたら、ただちにプレゼンテーションを終了してください。その後、委員から質問を行いますので、簡潔明瞭にお答えください。なお、審査で発言された内容は全て記録され、貴団体が委託事業者として海外派遣研修業務を請け負う際に遵守すべき事項となりますので、ご承知おきください。それでは、プレゼンテーションを始めてください。

《株式会社アーク・スリー・インターナショナル プレゼンテーション》

<久保委員長>

それでは、質疑応答に移ります。

質問のある委員の皆様は、お願いいたします。

<柴田副委員長>

先ほど、病気の事をお話しされていましたが、生徒の中にはホームシックにかかるケースがあると思います。その中で仰っていましたバディの存在やホストファミリーの存在が、心の拠り所になると思います。難しいと思いますが、バディとの相性など、どのように決められているのか、また、どのように対応しておられるのかももう少し具体的に教えて頂きたいです。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

ホストファミリーの選別方法に関して申し上げますけども、基本的には、現地の受け入れ校が募集をされて、登録、選定をされます。具体的に言いますと、過去に犯罪歴が無いかというのが第一点ありまして、その中でホストファミリーを登録されて、ホストファミリー側からも男性がいいとか女性がいいとか、ありますし、逆に日本サイドでもそういった好みが出て来ると思われますので、登録していただいた後に、我々が作成したホストファミリーのアプリケーションというものを作成してもらいます。我々が特にお聞きすることが二つありまして、一つ目が皆様のアレルギー。ペットがいけるかどうか、あと食ですね、あと動植物等のアレルギーの質問、もう一つが趣味、特技といったパーソナリティについての質問を入れておりまして、そこで皆さんにご記入いただいた情報、プラス皆さんのお写真、普段のお写真を付けて、学校の方にお渡しします。現地の学校のコーディネーターが、家族の中から例えばこの子だったら趣味が合いそうだ、とか、そういった形でマッチングという作業をしていただくんですけども、その際、オーストラリアでは8割くらいがペットを飼っているケースがありまして、ペットによって体に異常がみられる場合は、最重要事項ということになりますから、まずそこで判断して、なるべく性格・趣味の合ったご家庭を選定いたします。また、期間中もなにか問題があった場合は、毎日添乗員が皆様の顔を合わせて話を伺っております。ホストファミリーが送り迎えされる際に、ホストファミリー側にもお伺いして、特に問題はないか、なにか不都合はないか、お聞きしているんですけども、万が一、例えば第三者から見てどうしても相性的に合わない、といった場合は、家族を変えるということも可能かと思えます。可能かと思えますといえますのは、一応バックアップの家庭をいくつか用意されておりますので、万が一そういったことがあった場合に、このご家庭だったら大丈夫。このご家庭だったらいける、というのを二つ三つ予備のご家庭を学校の方をお願いしておりますので、万が一、そういった事態が起こった場合は、変更する事が可能です。

<柴田副委員長>

ありがとうございます。

<久保委員長>

他にございますでしょうか。

<満永委員>

一点だけ。先ほどこの研修の意義についてご説明いただいたんですが、この中学生海外派遣研修で最も大事だと考えていることはなんですか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。これはほんと一点だけですけども、日本とオーストラリアの違いを学んでいただくことと同じことを学んでいただくことです。

<満永委員>

違いと同じことを学ぶというのはどういうことでしょうか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。日本とオーストラリアと異なっている部分、日本ではオッケーだったのに、オーストラリアでは間違っている可能性だったりとか、日本ではこういう風にしてたけど、オーストラリアではこういう風にした方がいい、という違い。ともう一つ、これは想像していたより日本と同じなんだな、という同じことと違うことを学んでいただきたいと考えております。

<満永委員>

そういったことが後から振り返れるようなプログラムが組み込まれていると考えて良いですか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。

<満永委員>

わかりました。

<久保委員長>

他にいらっしゃいませんか。

<岡委員>

昨年からの改善点。それがなにかあれば教えて頂きたいんですが。反映されているとしたら、例えば現地でのスケジュールが変わったとかプログラムが変わったとかに

なるのかなと思うんですが、また体制が変わったということになると思うんですけども、そのあたり具体的に教えて頂ければと思います。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

改善点と言いますか、現地をお願いしていることなんですが、先ほどご質問いただいたとおり、ホストファミリーの選定方法ですね、毎回、口を酸っぱく言っているんですけども、毎回こちらの方が行かれた時にストレスを感じないご家庭。言葉で言うとは簡単なんですけども、選定に関しましては基準を厳しくしてください、ということの一つ申し上げていることと、もう一つ申し上げたいのは、ホストファミリーの研修を現地で行っているんですが、その時に先ほど申し上げたように、万が一、生徒さんが意思表示できない場合に、何を見て、どこに連絡したらいいのか。これはちょっと徹底するように、これは強く現地の方に伝えております。

<岡委員>

ありがとうございます。

<久保委員長>

他にございませんか。

<畑山委員>

はい。見積書の件でよろしいですか。見積書の内訳というか、料金の出し方で、生徒一人あたり、引率一人あたり、添乗員一人あたり、という分け方をしているんですけども、このそれぞれの差は何なのかというのと、添乗員を別に費用として出している理由は何なのか、また、添乗員と他の参加者の差は何なのか教えてください。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。まずは出し方に関して申し上げますと、生徒さん一人と引率一人の代金がありましたので、これまで通りというとおかしいんですけども、添乗員一人いくら、という出し方で明示させていただきました。これは今回の見積書の仕様内容といいますか、フォームが変わってしまいましたので、基本的に我々、生徒さん一人、引率者一人、添乗員一人、総額いくらというふうに明示すべきだと思ってお出しをしています。

費用の差についてですけど、まず、引率の先生もしくは引率の職員の方が一番安価である理由は、プログラム費用が含まれていないということ。プログラム費用といいますのは、現地での授業料、現地でのコーディネーターの費用が含まれていません。逆に生徒さんの方には、教材の費用であったりとか、現地のコーディネーターの費用

が含まれています。

最後に添乗員の費用なのですが、これに関しては我々の方で規定をしている日当、添乗員が業務するにあたって必要な費用、ということを鑑みて、この費用が必要と考え、この金額となっています。

<畑山委員>

では、生徒と引率者の差は、現地でのプログラム費用の差だけということでしょうか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。

<畑山委員>

では、添乗員の日当以外の必要経費とは何か教えてください。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。まず、連絡体制のことで申し上げました電話代、Wi-Fi 代も含みますし、添乗員に関しては、例えばホームステイなのか、もしくはホテルなのか、今現在は決めておりません。と言いますのは、現在どちらがいいのか、職員の方と相談しながら、どちらが動きやすいのか、今回の生徒さんであればどういった体制がいいのか。ということも含めて今後検討していきたいと考えておりますので、今の段階ではホテル、学校から近いホテルから交通費がかかりますので、それを想定しています。皆さんの中のホームステイとは違って、料金が高額になっております。

<畑山委員>

はい。ありがとうございます。

<久保委員長>

私の方から3点ほどお聞きします。1点ずつちょっとお答えいただければと思うんですが、まず、引率者、添乗員の件を先ほどお話しされたと思うんですが、できれば昨年とそのままでということでしたけども、今想定している添乗員の方の入社してからの年数と、海外の添乗の経験の回数。はっきりと何回、とはいかなくて結構です。それからオーストラリアの添乗の回数。教育旅行のみで教えていただけますか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

まず、今回の添乗員を予定している人間に関してですけども、入社24年です。それから海外の教育旅行に関してなんですけども、基本的に我々の事業部は、教育旅行だ

けですので、トータル10回。そのうちオーストラリアが8回になります。

<久保委員長>

ありがとうございます。二つ目なんですが、昨年ホームシックにかかってしまった生徒がいたという報告を受けております。これは完全に大丈夫とは難しいところですし、こちらが大丈夫と思っていても、現地でホームシックにかかってしまう、というのは実際あることなので、致し方ない部分もあるんですが、ホームシックにかかってしまって、英語もままならないし、結局部屋にこもって、ラインをしてお父さんお母さんに電話して泣いてしまうとかね。そういうふうなことが起こってしまった場合、完全にそれを解消できないとしても、それを御社としてはどういった対策が取れると考えておられますか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

正直申しあげますと、これを100%解消できるかと言われると、そういう状況によりまして分からないと思うんですけども、一つ言えるのは、そのホストファミリーに対して、外に出かける方がいいのか、もしくはみんなで食事をする方がいいのか、はたまた一人で食事をする方がいいのか、ということを話し合って、こういうことをお願いします、逆にこういうことはしないでください。といったことをお伝えしていきたいと思っています。また添乗員の方で、状況によるんですけども、一度あったケースをお話いたしますと、添乗員が決まった時間帯に、それが午後の六時なのか七時なのか、その時間帯に本人に電話をして、今何をしていますか、と少しでもストレスが軽減されるようにしていきたいと思っておりますし、ホームシックの方々っていうのをひとまとめにすることは出来ないんですけども、日中、大体9時から15時くらいまで、皆さんと一緒にいらっしゃる間は、ほぼ笑顔なんですね。その間に楽しく盛り上げさせていただくとか、家に帰ってこういうことをしてみてもどうかとか、日々何かサポートといいますか、アドバイスをさせていただければと思っています。ただ、これが合っているかどうかは分からないんですが、ホストファミリーを変えるという可能性、その選択肢もあるかと思います。そのあたりについてはご本人であったり、一緒に来ていただいている先生方を含めて協議したいという風に思います。

<久保委員長>

それに関連する事なんですけども、実際ホームシックにかかりましたと言ってくる生徒はいないと思うんです。早期発見じゃないですけども、かかっているかかっていると

聞いて回ってもなかなか学生は大丈夫と言うと思うんです。それを早期発見という点で添乗員さんが出来る事、また心がけれることはありますか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

一つは、朝晩の送り迎えの時ですね。ホストファミリーが送ってきました。その時に必ず一声かけるということを徹底しておりまして、例えば食事の量が少なかったとか、些細なことかもしれないんですけども、お聞きいたしますし、日々の様子で、例えば、ちょっと一人になると暗い表情をされるとか、そういった時は声をかけさせていただいたりとか、また夕方5時には迎えに来ますので、その時にホームシックになっている方は100%そうではないんですが、家に帰るのが少し嫌だったりとか考えられますから、その時はまた話をして、少し緩和剤になるようにということで、添乗員は徹底します。

<久保委員長>

私の最後の質問になるんですが、一次審査の時にいただきましたこの事故対応マニュアルというもの、御社のマニュアルなんですが。これは、お客様にこれをお渡しされる資料ですか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

それは違います。社内用です。

<久保委員長>

そうですね。お客様にお渡しする用の事故対応マニュアルはお持ちなんですか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

あります。

<久保委員長>

それではなくこれを添付された理由はありますか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

社内の体制に関してお伺いされているものかと判断してしまいました。

<久保委員長>

わかりました。ありがとうございました。

他にご質問ございますか。

<畑山委員>

はい。プレゼンテーションの中で、シンガポール航空を使われるとお聞きしたんで

すが、今回シンガポール航空を選ばれている理由は、取扱をいつもしているという意味で選ばれているのか、それ以外にシンガポール航空を選ばれた理由があれば教えてください。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。アデレード、というところに限っていうと残念ながら大阪から直行便がありません。と、なりますと考えられる候補が4つありまして、シンガポール、マレーシア、キャセイ、ジェットスターの4つになるんですけども、移動時間、拘束時間はほぼ変わらないというふうに考えています。どこの会社も同じ。ただ一つ言えるのは、取扱数ではなくて、これまで小・中学生もしくは高校生を担当させていただいた時に、一番評判の良かったところですね、アンケート結果が良かったのがシンガポール航空でして、理由は機内サービスですね、長時間の移動になりますので、機内食ですとか機内のエンターテインメント施設、座席、あとシンガポールでの乗り継ぎ、というのが非常に好評だったということですね。例えば、これがマレーシアだったりクアラルンプールだったり、香港だったり、というよりもシンガポールの方が圧倒的に今までアンケート結果が良かったので、シンガポール航空を選択させていただきました。

<久保委員長>

他にありますでしょうか。

<柴田副委員長>

よろしいでしょうか。期間中のホストファミリーに対して、なにかリクエストしているような項目があれば教えてください。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

基本的には、何か特別にこれをしてください、というものはありません。といいますのは、研修自体がオーストラリアの文化とかそういったものを肌で感じていただく、ということですので、ホストファミリーに対しては普段の生活通りをしていただくというふうにはお願いしておりますけども、例えば門真の生徒さんが行ったからといって、毎日御馳走を出してください。とかそういうことはお伝えはしていないんですけども、とにかくオーストラリアの一般的なご家庭がどういう生活をしているのか、普段通りの生活スタイルでお願いします、というのが一つあります。とはいえ、何か起こった場合に備えて、先ほど申し上げましたが、生徒さんに関しては、自分のお子様がいらっしゃるので難しいんですけども、よくよく注意していただいて、少しでも

困ったことがあったり暗そうな顔をしていたら、添乗員なりコーディネーターの方に必ずお伝えいただくよう徹底しております。

<柴田副委員長>

そのようなことは保護者説明会でもされているんですか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

保護者説明会でも、現地のホームステイのオリエンテーションがありますので、同じように説明させていただいております。

<久保委員長>

他にございますでしょうか。

<岡委員>

よろしいでしょうか。行程の中で学校内プログラムとか児童生徒交流プログラムとか自然文化伝統体験プログラムとかご提案いただけてますけども、前回のご提案も同様の内容であったかと思うんです。今回も引き続きこのようなご提案をされたという具体的な理由をお聞かせいただければと思います。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。アデレード自体が教育施設が充実しているかと言われたらそうでもないですし、観光施設があるかと言われたらそうでもないので、今までやった内容、行ったところ、そういうところでさらにこちらで事前に準備をする、具体的に言うと、資料を提供する、その施設のご案内をするということで、深くアデレード、オーストラリアを知っていただきたいと思っておりますので、基本的には前回と同じ内容で、より良く皆様に勉強していただけるように、と事前研修会でお伝えしていきます。

<久保委員長>

他にありますでしょうか。

<畑山委員>

今のプログラムの件で、ちょうど一週間ですけど、決まったものが向こうにあって、それをはめ込んでいるだけなのか、オリジナルに門真の分として、依頼して作ってもらったものなのか、どちらでしょうか

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

基本的にはオリジナルです。と言いますのは、いただいた仕様書とかご提案を踏まえてこういうものを入れてください、とのことだったので、現地にリクエストして、

門真のプログラムで、特に最終日はプレゼンテーションを行うので、必ずこれは入れてください、だとか、中学生なので、中学校で行動するんですけども、それに加えて、二年前からになるんですけども、近くの小学校、幼稚園が併設されているところがあるので、そこで子どもたちと文化の共有をする。日本語を教えてあげる。そういったものを入れてくださいとお願いしておりますので、基本的にオリジナルになりますし、アデレードの現地の教育省に対し、いわゆる雛形のようなものがあるんですけども、今回の場合、これにこれを入れてください、というものではなくて、最初から我々が日程を組んで、ここはこうでここはこうとオリジナルにしています。

<久保委員長>

他の方はよろしいでしょうか。

それでは、これで審査を終了します。審査結果につきましては、2月末頃、通知させていただきます。ご苦労様でした。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

ありがとうございました。

《株式会社アーク・スリー・インターナショナル 退室》

《近畿日本ツーリスト株式会社 入室》

<事務局>

それでは審査の前に、2点確認をさせていただきます。貴団体の役員等に本市の市長または市議会議員が加わっていませんか。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

はい。おりません

<事務局>

次に、貴団体の構成員に暴力団員または暴力団員と密接な関係を有する者はいませんか。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

はい。おりません。

<事務局>

それでは、これよりプレゼンテーション審査を始めます。はじめに 20 分以内でプレゼンテーションを行ってください。終了 1 分前に合図をいたします。20 分後にタイマーがなりましたら、ただちにプレゼンテーションを終了してください。その後、委員から質問を行いますので、簡潔明瞭にお答えください。なお、審査で発言された内容は全て記録され、貴団体が委託事業者として海外派遣研修業務を請け負う際に遵守すべき事項となりますので、ご承知おきください。それでは、プレゼンテーションを始めてください。

《近畿日本ツーリスト株式会社 プレゼンテーション》

＜久保委員長＞

それでは、質疑応答に移ります。皆様ご質問がございましたらお願いします。

＜柴田副委員長＞

はい。よろしくお願いいたします。生徒さんの中にはホームシックにかかるることがあると思うんですけども、そこでバディの存在はコミュニケーションを図る上で拠り所になるものだと思います。ホストファミリーとの相性も、先ほど事前の説明で把握されているとのことでしたが、もう一度具体的にそれぞれどのように決定され、どのように対応しようとされているのかお教え願いたいです。

＜近畿日本ツーリスト株式会社＞

先ほど、申込書のようなものにお伺い書といたしますか、生徒様の情報をご記入いただきます。その中にはプロフィールですとか、生徒様の家族構成、そして一番大事なところがアレルギーという面になりますので、動物を飼っているご家庭もたくさんあります。ですので、そういったアレルギーの情報をメインに、その他趣味が合いそうな家庭を探したり、男性、女性という情報から選定させていただいております。

補足ですが、弊社の過去の事例といたしましては、現地でホストファミリーと対面して、一晚過ごしていただく、その際にどうしても家族の中で本当に合う合わないといった場合に限りましては、受け入れ先を変更させていただくということもあります。もちろん極力そうならないように働きかけをするんですけども、どうしても生徒様の方で困られる、トラブルになりかねない場合につきましては、そのような対応もとらせていただこうと思います。

<柴田副委員長>

もう一つお願いします。ホストファミリーに対して何かリクエストしているようなことがあれば教えてください。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

リクエストですか。

<柴田副委員長>

別になればそれで結構ですけども。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

弊社から特別なリクエストということはないんですけども、あくまで、現地の滞在店を通じまして、ちゃんと国及び州の方でライセンスをきっちり発行されておりますので、その条件を満たす家庭であるということだけは守ってもらうようお願いはしております。それ以上特別なリクエストはしておりません。

<久保委員長>

他にございませんでしょうか。

<満永委員>

はい。二点あります。一つは見積書の費用には海外旅行保険が含まれておりませんね。別途、保護者から徴収ということになるんでしょうが。その理由は何なのか、教えていただきたいです。もう一つが、先ほど特徴として仰った、その日のうちに帰ってこられると、帰ってくるのは23時頃になってしまう。我々この後、解団式を、例年ここに帰ってきたらここに集まって解団式、教育長や学校の先生方がここに迎えに来て、そして保護者が迎えに来て、そしてここで解団式をして、そしてそれぞれ三々五々、保護者の方と帰っていくと。それを昨年は午後、昼頃に帰ってきたと思うんですけども、それが23時になりますと非常にこのあたりは厳しいなと感じています。それで質問ですが、例えば、これを翌日の午前中にしていただくとか、そういった変更は可能なかどうか、この二点について教えてください。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

まず、先に二つ目のご質問の方から。帰着後、解団式をしている、ということ存じ上げなかったのが、解散するだけという想定で、今回、キャセイパシフィック航空を選択させていただきました。変更が可能かということにつきましては見積もりを提出するにあたりまして、シンガポール航空の空き情報は確認出来ているので、可能だ

とは思いますが、料金が多少変わってきますので、今すぐに即答ということではできかねるんです。今後のご相談により、変更は可能かと思います。

また、一つ目の保険の件につきまして、仕様書の読み込みが不完全なところがございまして、裏の方に載せておりました保険の方を、13 ページの方になっております。こちらのタイプも可能ではございますが、今回の旅行代金のお見積りの中には含めてございませんでした。当然、色々なプラン、3プランあげさせてもらっている中で、旅行代金に含めることは出来たんですけども、今回について、条件が違うかもしれませんが、別途でというふうにご提案させていただいております。他意はございませんが、そういう事情があるということを補足させていただきました。申し訳ございません。

<岡委員>

はい。よろしいですか。近年よく報道でバス事故というものが報道されるんですけども、飛行機も怖いのは怖いんですけども、短距離であってもバスの事故、もちろん大切な生徒さんを乗せていくので、気を付けていかないといけない部分かなと思っているんです。提案書には貸し切りバスとか専用バスとかいう風に記載していただいておりますけども、そのバスの詳細をですね、それをお教えいただきたいのと、それから8月1日と8月3日の行程に遠足ってあるんですけども、これはまあどのような交通手段を利用されるのかというのをお教えいただけますか。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

まず、門真市役所から関西空港までの往復につきましては、今回〇〇バスというバス会社を想定しております。色々なバス会社があるんですけども、昨今バス代の料金が上がっていることもありまして、営業所が近いバス会社を想定させていただいております。

現地のバス会社につきましては、今のところそこまで情報がキャッチできておりません。大変申し訳ありませんが、ご回答を控えさせていただきます。

遠足につきまして、2回の遠足と小学校訪問につきましては、同じ専用バスをご用意させていただきますので、特に皆様、研修生自身で移動していただくということは無くて、皆さんでその場所に行っていただくということになります。

<岡委員>

この〇〇バスさんなんですけども、定員は何名のバスですか。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

今回、大型バスを予定しておりまして、仕様に書いていただいた人数ですと中型バスでは大きな荷物が入りきらない可能性がありますので、ゆとりを持って大型バスを予定しております。

<岡委員>

その点は問題無いということですね。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

はい。

<岡委員>

それではもう一点よろしいでしょうか。学校プログラム等々について、このようにしていきますとご説明はあったんですけども、こういうプログラムを選ばれた理由ですね。例えば、パッケージ物で初めからあるものなのか。オリジナルでこういう視点でプログラムを組みましたというがあれば、いずれか教えて頂きたいです。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

プログラムにつきましては、パッケージ物という訳ではなくて、今回仕様書を読み込む中で、なるべく交流を多くということ、小学校訪問につきましては児童の交流が望ましいということで、現地の自然や文化を知ることができるということで、平日が5日間という短い期間になりますので、なるべくその中でたくさんの文化ですとか、交流が出来るように最大限のプログラムを組ませていただきました。

<久保委員長>

他にございますでしょうか。

<畑山委員>

見積書の件でよろしいでしょうか。研修生と引率者、金額に差があるんですけども、この差は何なのか、という点と、添乗員費用は入っておるのは書いてあるんですが、下に書いてありますレンタル携帯電話2台とWi-Fiルーター1台は、添乗員もしくは引率者のみ、ということでしょうか。それとも生徒全員に持たせるという意味も含まれるものになっているのでしょうか。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

料金の差につきましては、研修生に関しましては現地での授業ですとかテキストが必要になりますので、そういったアクティビティ代とか、そういったものの差になり

ます。次に、レンタル携帯と Wi-Fi ルーターに関しましては、仕様書に必要とされることが書いてあったとおりに計上させていただきました。恐らく引率の方が使われるものだと思うんですけども、その通りに見積もりに計上させていただきました。

今後、ご契約いただいた折になりますけれども、Wi-Fi は、研修生の皆様もスマートフォンを持ち込んで通信をされると思います。オプションということになりますけれども、弊社の方から Wi-Fi のレンタルが可能ですよというご案内は、事前の説明会等でお話させていただこうと思います。

<久保委員長>

他に皆様からございませんか。

私から 2 点ほどあるんですけども、先ほどの説明の中でホームステイ先で何かあった時には、まずホストファミリーが学校に連絡をして、そこから添乗員に行くというお話をされてました。何かあったのが真夜中だった場合は、ホストファミリーから学校へ連絡が 24 時間対応でいくような体制になっているのでしょうか。ご回答をお願いします。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

真夜中であっても学校の担当の方には、24 時間対応していただけるように、そういうルートにしております。添乗員の方も携帯電話を持参しておりますので、24 時間、何かあった際は、駆けつける事ができるようにさせていただきます。

<久保委員長>

次に、生徒の男女比によって、添乗員の割り振りが変わってくるかもしれないんですが、この研修そのものに対して想定されておられる添乗員の入社歴、あるいは添乗の経験、海外の添乗歴、オーストラリアへの添乗歴。教育旅行に関して、どれくらいの想定をされているのでしょうか。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

今考えておりますのは、渡航歴、添乗歴のキャリアが最低 10 年以上は勤めている者及び海外での添乗業務をメインとしている年間 200 日以上は海外で添乗業務をしている者から男性もしくは女性で選定させていただこうと考えております。

<久保委員長>

先ほどちらっとホームシックの話が出たんですけども、昨年少しホームシックにかかった生徒がいましたという報告を受けております。これは、100%避ける事はできな

いことだと思ひますし、またこちらでは予期できない、生徒自身も予期できないと思ひます。こちらが大丈夫だと思ひていても、行ったらかかってしまった、ということもあると思ひますので、そういうことは起こり得ることかもしれませんし、実際、なかなか英語力もままなりませんから、話ができなかったら、結局淋しくなつて、部屋でラインをしてしまうというような事態が考えられるんですけども、出来るだけそういうもの、ホームシックを、そういった事態を自分からホームシックにかかっていますとは生徒はなかなかいないと思ひうんですが、それを早期発見といいますか、キャッチして、そして、できるだけそれを緩和させるような処置といいますか、会社として、添乗員の仕事になると思ひうんですが、どういふ処置が取れると考えておられますか。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

例えば、今までさせていただいた事例で言ひますと、毎回学校に登校していただく際に、朝の一番で、門真市の生徒さんと引率の方と添乗員と一緒に朝礼のようなものをさせていただいて、その際に一人一人に体調の面ですとか、メンタルの面ですとか、一人一人と会話をして、そういうホームシックがないか、それ以外にもホームステイ先で困ったことはないか、そういうのをなるべく吸い上げれるようなことをさせていただくことがあります。今回もそのような対応をできればと思ひます。

<久保委員長>

他に何か皆様ございますでしょうか

<柴田副委員長>

基本的なことになると思ひうんですけども、一番中学生に体験してもらいたいと考えておられるところ、一番大事だと考えておられるところはどの点か一つだけ教えてください。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

やはり一番大事だと考えている点は、ホームステイです。他の家庭に泊まることも初めてだと思ひますし、日本語が使えない、英語でしか会話ができない、その中で自ら努力して発言したり対話していかなければならないということは、苦痛に思ひうかもしれませんが、それを乗り越える事ができましたら達成感が得られると思ひますし、今後の英語を勉強する糧にもなると思ひますので、この学習を億劫だと思ひないように支援させていただいて、ホームステイを楽しんでもらえるようにできたらなと

思います。

<久保委員長>

他になにか皆様ございますでしょうか

<畑山委員>

この危機管理マニュアル、非常によく出来ていると思いました。欧米に比べてオーストラリアはテロみたいなのは少ないと思うんです。安全面で、一番重要なものは何だと思いますか。ちょっと漠然としておりますけども。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

有事においては、初動だと考えております。おっしゃっていただいたようにオーストラリアで有事が起きないにしましても、やはりヨーロッパ、イスラム、アメリカ、他色々なところでも可能性としてはあります。それは、有事に関わらず天災であってもそうだと思いますので、そういう時にオーストラリアの事でないにしても、やはり出発までは担当者の方ですとか、場合によっては本社の方にツーリストから情報を提供させていただき、オーストラリアが安全であること、また、他国でこういうことが起きているということをフィードバックすることが大事だと思いますし、実際に旅行がスタートする段階ではなおさら、その情報をスピーディに提供することではないかと考えております。

<久保委員長>

他になにかございますか。

これは確認ですが、この提案書を作成されたのは〇〇さんだと思いますが、中身等については全て〇〇さんの方でも確認されていると、それで提出されているんですよね。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

はい。

<久保委員長>

ありがとうございました。

それでは、これで審査を終了します。審査結果につきましては、2月末頃、通知させていただきます。ご苦勞様でした。

<近畿日本ツーリスト株式会社>

ありがとうございました。

《近畿日本ツーリスト株式会社 退室》

<久保委員長>

それでは、今から意見交換の時間を取りたいと思います。何かご意見がございましたら、率直にお願いいたします。

<畑山委員>

株式会社アーク・スリー・インターナショナルは去年もずっとされてきたので、内容はもう知っている、みたいな部分があって、重要な部分だけを伝えていた感じがしました。それに対し近畿日本ツーリスト株式会社は、書いてありますが、細かく内容を説明されて、分かりやすいように説明されていたのはすごく好感が持てました。

<久保委員長>

プレゼンテーションの時間は、株式会社アーク・スリー・インターナショナルは何分で近畿日本ツーリスト株式会社は何分でしたか。

<事務局>

それぞれ 20 分以内で株式会社アーク・スリー・インターナショナルが 19 分ぐらい、近畿日本ツーリスト株式会社はだいたい 17 分ぐらいでした。

<久保委員長>

〇〇バスを使用されるとのことでしたが、11 月に私も〇〇バス使いましたが、しっかりしていました。大きなバスでしたし、対応もきちりとしていました。

<岡委員>

〇〇バスについては、大きいバスに〇〇バスと書いてあるのを見たことがなかったものですから。

<久保委員長>

確かに。ついていませんでしたね。

<岡委員>

〇〇交通とかね。よくついているのを見ます。

<久保委員長>

〇〇交通ね。よく見ますね。

<岡委員>

そういう大型バスを自前で持っているのでしょうか。

<柴田副委員長>

何台か置いているのを見たことがあります。

<柴田副委員長>

内容的にはほとんど一緒ですけども、近畿日本ツーリスト株式会社の方は、午前中は現地の先生が、門真市の生徒だけの授業を行い、株式会社アーク・スリー・インターナショナルの方はバディの授業を体験させるという違いがありました。まあそれだけじゃないですが、総合的に見ても、差がつきにくいですね。

<久保委員長>

危機管理は、大手なのでしっかりしていると感じました。対外的なマニュアルもしっかり提案されているので、近畿日本ツーリスト株式会社の方がしっかりされていると思いました。どうしても株式会社アーク・スリー・インターナショナルは、できない部分はありますけれども、毎回やっているから経験の中でツボを押さえている感じがありました。

<久保委員長>

それでは意見が全て出ましたので、審査用紙の最終確認をお願いいたします。

<事務局>

現在時間3時2分ですので、15分後の3時17分に回収させていただきたいと考えております。

<久保委員長>

はい。では、3時17分の回収でよろしいですか。

<久保委員長>

それでは、事務局は審査用紙を回収し、集計を始めてください。これより集計結果が出るまで休憩とします。

《休憩及び集計》

<久保委員長>

それでは委員会を再開します。まず、集計結果について事務局から報告をお願いします。

<事務局>

それでは、集計結果について報告します。集計結果は一次審査と二次審査を合わせた得点をご報告します。

第1位は、株式会社アーク・スリー・インターナショナルで、150.05点です。

第2位は、近畿日本ツーリスト株式会社で、146.80点です。

以上で、集計結果の報告を終わります。

<久保委員長>

それでは、一次審査と二次審査の合計得点により、委託事業候補者の順位を、第1位「株式会社アーク・スリー・インターナショナル」、第2位「近畿日本ツーリスト株式会社」と決定したいと思います。これによって、平成29年度門真市中学生海外派遣研修事業委託事業候補者は「株式会社アーク・スリー・インターナショナル」とし、もし、この団体に業務委託事業者として著しく不適当な事由が生じた場合は、2位の「近畿日本ツーリスト株式会社」を委託事業候補者とします。

最後に、今後のことについて事務局より説明をお願いします。

<事務局>

それでは、今後のことについてご説明いたします。まず、本日の総合評価の結果を申請団体に対して、選定または不選定の通知を郵送により発送します。併せて、市ホームページにて選定結果を公表します。委員の皆様におかれましては、ホームページに掲載される2月末ごろまでは審査の結果について口外されませんようお願いいたします。

次に、会議録の公開については、委託事業候補者が公開された後にいたします。それまでにこちらで作成した会議録をお渡ししますので、ご発言の個所の確認をお願いいたします。

<久保委員長>

ただいま、事務局より今後のことなどについて説明がありましたが、ご意見、ご質問はございませんか。

<柴田副委員長>

一つ質問します。この両者には、得点の内訳が分かるように通知をするのですか。

<事務局>

はい。

<柴田副委員長>

わかりました。

<久保委員長>

他に質問はございませんか。

それでは、以上をもちまして、門真市中学生海外派遣研修事業委託事業者選定委員会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。